


2021(令和3)年8月24日

新幹線列車内での喫煙が不適切であることに関する意見書

東京高等裁判所 御中

大和浩 

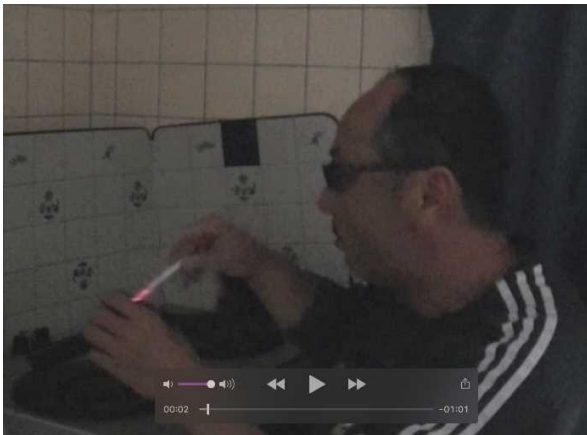
文責：産業医科大学 産業生態科学研究所 教授 大和 浩
807-8555 北九州市八幡西区医生ケ丘1-1 直通電話：093-691-7473

1. 喫煙終了直後の呼気にタバコ煙が含まれていることの証明

文部科学省の科学研究費助成事業(科研費)「地域で行う妊産婦とパートナーを対象とした禁煙サポートプログラムの開発」(主任：岐阜大学 地域・老年看護学 准教授 瀬瀬朋美(こうけつ・ともみ))の教材として2011(平成23)年5月13日に岐阜県郡上郡の某家庭で実験を実施)

喫煙終了後、肺に残ったタバコ煙が呼出されることによる受動喫煙を平面レーザーの照射により可視化(男性の肺活量は約3,500ml、1回の呼吸量は約500mlなので、喫煙終了後も肺に残った煙が呼出され続ける)

動画のダウンロード：<http://www.tobacco-control.jp/movies.htm>



02秒：消火



21秒



21秒



29秒



38秒



40秒

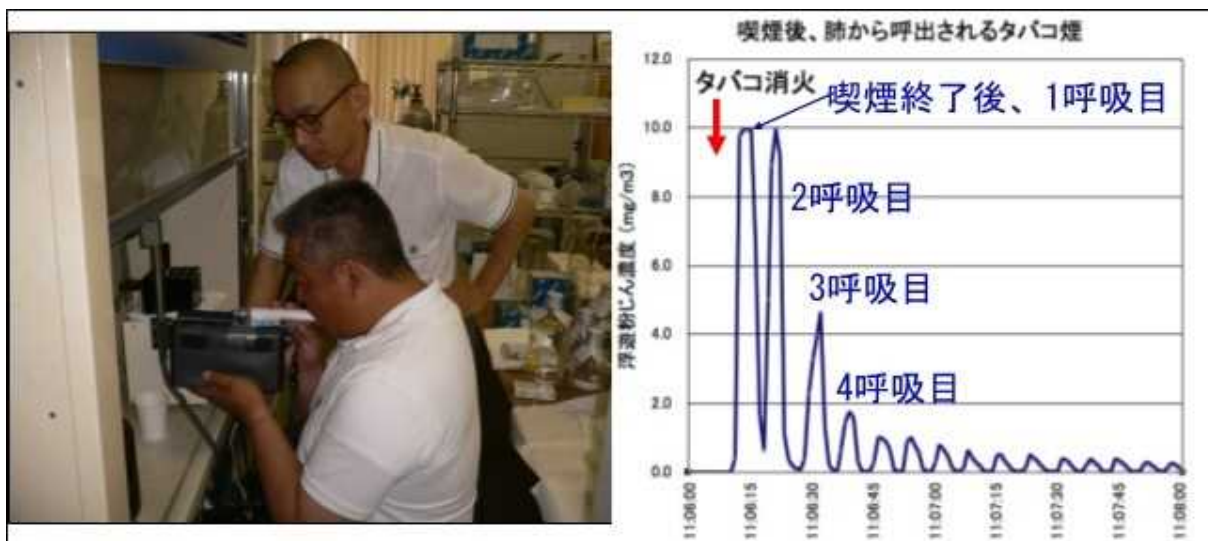


41秒



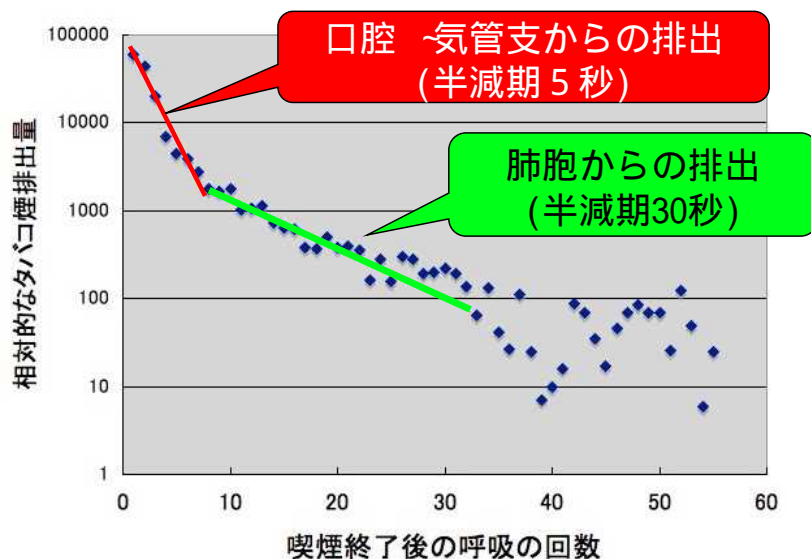
48秒

2. 喫煙終了後の呼気に含まれるタバコ煙の濃度の測定実験
 (2007(平成19)年6月11日: 産業医科大学 健康開発科学研究室にて実験を実施)



喫煙後、息の中には高濃度のPM_{2.5}
 一山の面積をタバコ煙の量とみなして減衰曲線を作成

直線性のある約30呼吸(約150秒間)の呼気に
 タバコ煙が含まれており「受動喫煙」が発生する



その後、口腔・気管支粘膜に付着したタールから揮発するガス状物質の放出
 = 「三次喫煙」の被害が数十分継続する

3. 三次喫煙に晒されることの悪影響

健常者では「不愉快」で済むが、つわりの時期の妊婦であれば嘔気、気管支喘息や化学物質過敏症の患者では呼吸困難の発作の原因となる。この現象は、スギ花粉が飛散する季節に花粉症の者はくしゃみ、流涙が止まらないが、花粉症ではない者は無症状であることを考えれば理解しやすい。

呼気から発生する三次喫煙＝タバコ臭

- ・ 過敏症、喘息の人では発作誘発、妊婦(つわり)は嘔吐
- ・ 健常者にとっても不愉快な臭いを嗅がされる不利益が発生

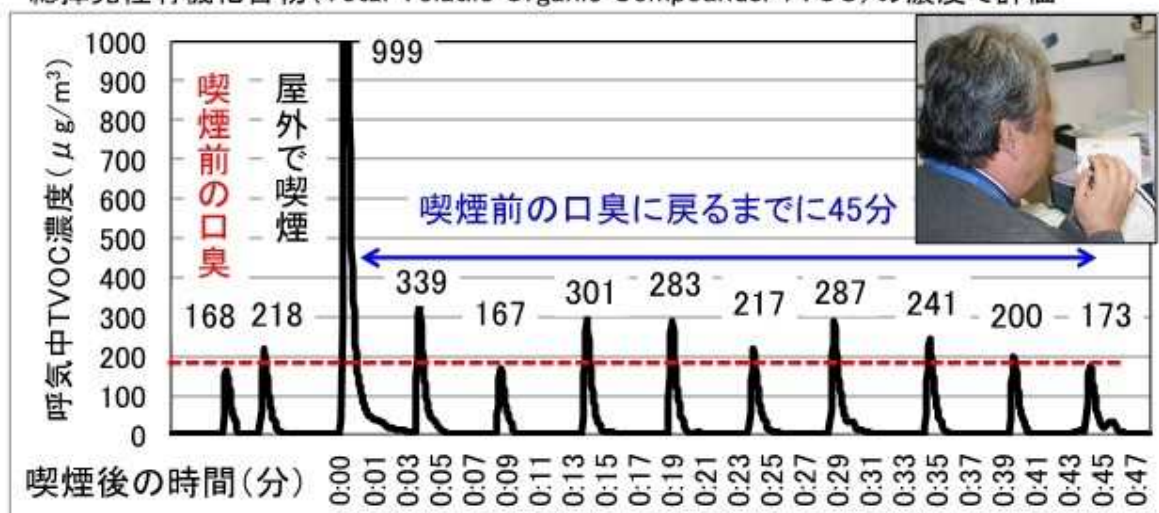


三次喫煙：喫煙後の呼気に含まれるガス状物質(TVOC)

喫煙後の呼気のタバコ臭、喫煙前に戻るまでに45分

喫煙前後の口臭をシックハウスビルディングの調査の指標である

総揮発性有機化合物(Total Volatile Organic Compounds: TVOC)の濃度で評価

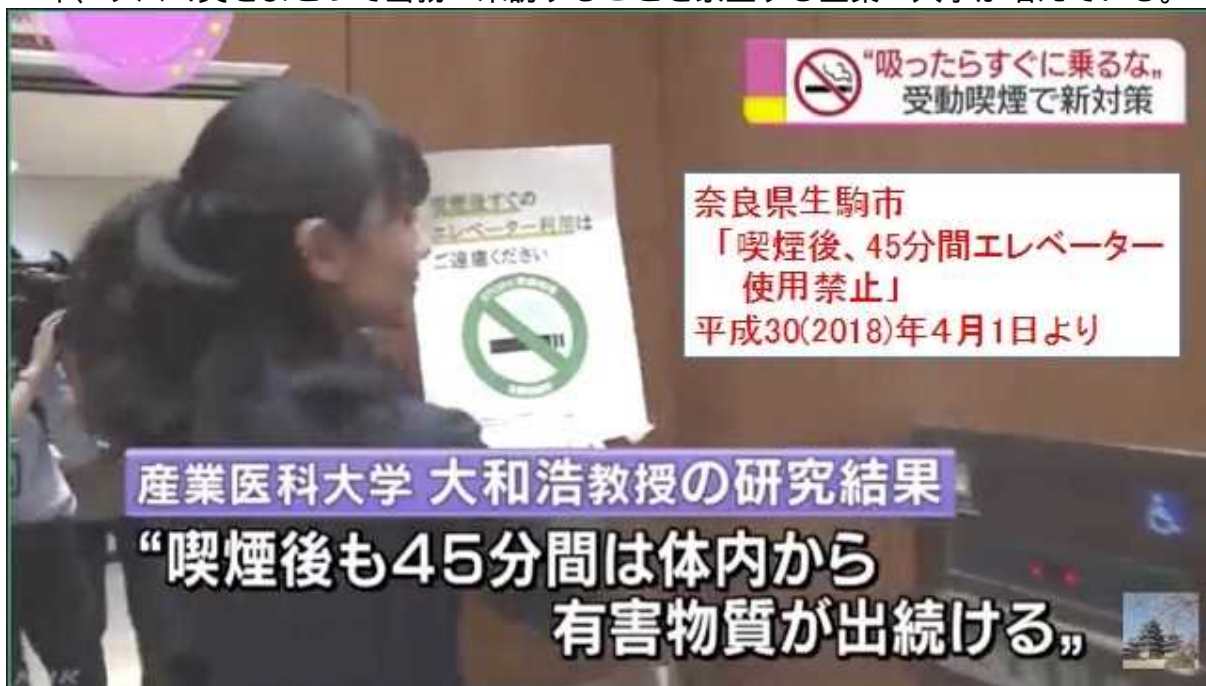


勤務の合間に喫煙すると、一日中、口臭がタバコ臭い

大和 浩. 受動喫煙の健康影響に関する最新情報. 保健師ジャーナル. 2019. 75; 105-112.

4. 三次喫煙の防止に係る社会の動向

2010年の厚生労働省健康局長通知「受動喫煙防止対策について」(健発0225第2号、平成22年2月25日)において、「残留たばこ成分」についても啓発すべきことが記載され、近年、タバコ臭をまとして出務・来訪することを禁止する企業・大学が増えている。



喫煙後45分間 エレベーターの利用禁止 奈良 生駒 NHKニュース

(2018年3月30日 NHK関西地方ニュース <https://newspicks.com/news/2922901/>)

国立大学法人北陸科学技術先端大学院大学 平成29年度事業報告
<https://www.jaist.ac.jp/about/data/accounting/h29-report.pdf>

喫煙後、45分間は呼気に有害物質が出続ける
⇒キャンパスの敷地内に立入禁止

(2) 学内全面禁煙及び「喫煙後 45 分間」立入禁止ルールを導入



・平成29年6月に産業医を中心とするワーキンググループを立ち上げ、実効性のある受動喫煙防止対策について検討し、平成30年4月からの学内全面禁煙のルールを定めて構成員への啓蒙活動を実施した。平成29年8月から段階的に建物内喫煙場所の削減を行い、同年10月1日には全ての喫煙場所を廃止し、最終的には学生寄宿舍を含むキャンパス全域を禁煙区域とした。さらに、タバコを吸ってから45分間は喫煙後に呼気から有害物質が出続けるとの専門家の意見を参考に、喫煙後45分間はキャンパスへの立入りを禁止する独自ルールを策定・実施した。罰則規定はないものの、教職員や学生に加え、来学者にもルールに従うように求めている。喫煙後の立ち入りを制限する徹底した受動喫煙の防止対策は全国にも例がなく、メディアにも多く取り上げられるなど、本学の取組が関心を集めた。

年度計画で予定していた安全管理体制(安全衛生教育、定期的な巡視等)に加え、構成員の安全な教育研究環境の確保のため、徹底した受動喫煙防止対策を行うなど、年度計画を上回って実施し

最寄り駅から大学までのシャトルバスの利用も禁止

イオン「就業45分前から禁煙」検討 「業務時間外」の会社ルールOK? 弁護士に聞いた イオン「就業45分前から禁煙」要請

1/26(火) 20:24 配信 👍 2596

  Yahoo!ニュース 2021年1月26日

 J-CASTニュース
ビジネス&メディアウォッチ



イオンの「禁煙施策」が議論に（画像はイメージ）

小売大手・イオン（千葉市）が打ち出した「禁煙施策」が議論を呼んでいる。

2021年1月25日、グループ従業員約45万人を対象に就業時間内、敷地内での「禁煙」を実施するとニュースリリースで発表。そこには、喫煙後に衣服などから発生するたばこ成分を周囲の人が吸い込む「三次喫煙」を防ぐため、就業時間45分前の喫煙もやめさせるといった趣旨の説明もあり、ツイッター上では「出勤前くらいは従業員の自由にさせて」「行動を制限する権利はあるのか」と異論が噴出した。

企業が従業員に対し、就業時間外での「禁煙」を求めることに法的な問題は生じないのか。J-CASTニュースが1月26日、弁護士法人天音総合法律事務所の正木絢生代表弁護士に取材すると、「一般に就業時間外に使用者の権限が及ぶのは限定的な場合と考えられている」としつつ、以下のような見解を示した。

「喫煙者の呼気に含まれる総揮発性有機化合物の濃度が喫煙前の状態に戻るまで喫煙後45分かかるとの産業医科大学のデータ等があり、三次喫煙の悪影響の重大性からすれば就業前の禁煙を求めることにも一定の必要性・合理性があるといえそうです。そのため、就業45分前であれば喫煙禁止を求めることも適切な使用者の権限行使と判断される可能性はあります」

出典：<https://www.j-cast.com/2021/01/26403717.html?p=all>

5 . 所見

喫煙後、約 2 分半（150秒）の呼気にタバコ煙が含まれ、受動喫煙が発生する。
新幹線の喫煙室で喫煙を終えた直後の方が隣の席に来た客は、上記の理由で受動喫煙の被害に遭う。

その後、少なくとも45分間は三次喫煙の被害が発生し続ける。

結論：JRが新幹線の乗客に列車内での喫煙を認めることは不適切である。

なお、【甲64号証】による新幹線列車内の設備配置を踏まえれば、本件訴訟で問題になっている喫煙客が10号車の喫煙ルームで喫煙を終えてから11号車13番B席に着席するまでの所要時間は約30秒と見込まれることから、喫煙客が自席に戻ってからも、肺に残ったタバコ煙が呼出されることによる受動喫煙被害が隣席やその周囲の人に生じたことが、強く推認される。

以上